

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第76号

発行:2020年12月10日  
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
〒739-0147 副住職 天野英昭  
東広島市八本松西6丁目10番1号  
☎・FAX 082-428-1360

## 除夜会並びに元旦会

日 時 12月31日(木) 23:30~24:30頃

場 所 天龍寺 本堂

## 御正忌(おたんや)法座

日 時 1月29日(金)

ご講師 朝枝 暁範 師(北広島町 本立寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

## 第104回 歎異抄輪読会のご案内

日 時 12月17日(木) 14:00~15:30頃

場 所 天龍寺本堂

講 師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

### 天龍寺報恩講・永代経法座のお礼

先般、11月16日(月)に当山に置きまして報恩講・永代経法座を執り行う事が出来ました。コロナウイルスにより、大変な時期にもかかわらず多数の方々のご参詣をいただきましたこと書面をお借り申し上げ感謝申し上げます。また、天龍寺総代様、天龍寺仏教壮年会のみな様には、ご多忙の中お手伝い・ご協力・ご尽力等を賜りましたこと厚くお礼を申し上げます。

## 本願力に遇いぬれば、むなしくすぐる人ぞなきⅡ

話は大きく展開しますが、中国の唐の時代、今から約1200年前頃の詩人に杜甫<sup>とほ</sup>という人がいます。みなさまも一度は耳にされたことがあるかもしれません。彼の代表作に『春望<sup>しゅんぼう</sup>』があります。

その冒頭は『国破れて<sup>くにやぶ</sup> 山河あり<sup>さんが</sup> 城春にして<sup>しろはる</sup> 草木深し<sup>そうもくふか</sup>』という言葉があります。意味は、戦乱で唐の都の長安は破壊されたが、大自然の山・河は、依然として変わらず、町は春を迎えて、草木が生い茂っているという意味です。

この度のコロナウイルス、一昨年の西日本豪雨災害も含め、いくら科学技術・医療技術等が発達しても、私たちの子孫も現代の私たちと同じように様々なことに<sup>あ</sup>遇って、この一度の娑婆の人生を生きていくのだらうと考えることがあります。

しかしながら、今申しました杜甫<sup>とほ</sup>の詩ではありませんが、私たちが見ている山河は、おそらく数百年後の子孫の多くの人たちも私たちが見ている同じ風景を見ているのだらうなと想像することもあります。

悠久の歴史、人類2000年、4000年の歴史を踏まえ私という存在を思いますと取るに足りない存在かもしれないと、近頃考える時があります。

確かに大きな視点から見ますと取るに足りない私という存在かもしれません。しかし、取るに足りないと思う存在でありながら、誰に見られるわけでもなく、評価もされるわけでもなく、ただ自然界の木々、草花同様に、その日いただいた<sup>いのち</sup>生命を自分なりに輝かせながら、娑婆の縁を去る瞬間まで人生を歩めたらとも思うことであります。

さらに話は大きく展開しますが、グローバル化が進み、時代のスピードが年々加速し、AI(人工知能)の存在が、今後人間にとって大きな脅威になりうる時代がそこまできており、一方でますます<sup>しれつ</sup>熾烈を極めている競争社会の現在、さらに人類がこれまで経験したことのない長寿社会をふまえますことに、役に立つ・役に立たない等の価値観等だけを持って生きていますと、なかなか生き苦しい時代に入っていると思うことであります。

それは『あまりに時代のスピードが速いゆえに、今日勝った人が、明日には負けており、20代、30代には必要とされていた自分が、40代、50代を迎えるとリストラの対象になる時代であり、さらに今申しました長寿社会を迎え、自分自身を鑑み思いますことに還暦を過ぎ、体力・身体機能が衰えいきますと、そのような役に立つ・役に立たない等の価値観等だけでは、自らの老いと向き合うことも難しいのかとも考えることもあります。

しかし、『あなたは、あなたのままでよい。』という絶対の世界からの呼び声<sup>もと</sup>の基、決して自己満足ではなく『その時、その時のありのままの自分を、ありのままの自分として受け止めさせていただく価値観等』を幼少期から、ご教示いただいたことは、この年になり本当にありがたいと思うことでもあります。(次号に続きます。)